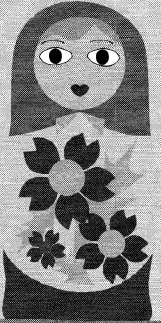


第 57 号
(NPO 第10号)



【ПРИРОДА】プリローダ=ロシア語で「自然」という意味をあらわす

発行：2014年1月1日

むさしの・多摩・ハバロフスク協会は、東京都武蔵野市で生まれた、「寒帯林保全」、「自然体験活動」、「国際交流」などを行う NPO 法人です。

ハバロフスク洪水見舞金 たくさんのご支援 本当にありがとうございました！

過日、至急のお願いで、お手紙を差し上げました「ハバロフスク洪水見舞金」につきまして、11月末までに日本円に換算して43万6,718円ものご厚志を頂きました。皆様のアたたかいお気持ちに心から感謝申し上げます。

これらは、以下の4ヶ所にお渡しすることができました。

- ① ハバロフスク市役所：1,000 USドル
- ② ハバロフスク市内被災団地住民：3万ルーブル
- ③ シカチアリヤン村：3万ルーブル
- ④ ヒンガン自然保護区：3万ルーブル

2013. 10. 1付で写真のような新聞記事が掲載されました。②のハバロフスク市内の最も被害が大きかった被災団地住民への手配は、新聞記者のエレナ・チェルニコワさんが行って下さいました。その後、どんどん寄付が増えましたので、植林ボランティアツアーでお世話になっている少数民族のナナイ人村や自然保護区への支援もできました。残りの分は、来年の植林ボランティアツアーの際に、森林管理局へお見舞金として渡す予定です。

ГОРОДСКИЕ ПОДРОБНОСТИ ВТОРНИК, 1 октября 2013 г.

МИЛОСЕРДИЕ

Отклик души

Финансовую помощь хабаровчанам, пострадавшим от наводнения, оказали японские волонтеры — участники ежегодных лесопосадок.

Они приезжают в Хабаровск на протяжении 15 лет, высаживая в пригороде краевой столицы саженцы кедров и лиственницы. Причем их японцы покупают на сред-

ства, собранные некоммерческой общественной организацией «Мусасино — Тама — Хабаровск».

«Мы не смогли остаться в стороне от того бедствия, которое постигло ваш прекрасный город, — написала исполнительный директор ассоциации Эмми Андо. — Выражаем искренне сочувствие всем пострадавшим. На днях мы перечислили

1 000 долларов на счет, указанный на официальном сайте администрации города. Но пожертвования от простых японцев продолжают поступать, и мы хотим дополнительно передать еще 30 000 рублей. Это естественный отклик души на ту помощь, которую оказали россияне в дни большого землетрясения в 2011 году, когда спасатели из Хабаровска приехали прямо к месту трагедии и находились здесь до самого последнего момента. Наша ассоциация признательна

администрации краевой столицы за постоянное содействие во время ежегодных лесопосадок, мероприятий в рамках экологического образования, наблюдений за птицами. Деньги хоть и небольшие, но собраны они с чувством сердечной благодарности. Приближается зима, в таких условиях просто ликвидировать последствия. От души желаю жителям города крепкого здоровья и сил на преодоление выпавших испытаний».

Елена ЧЕРНИКОВА

慈悲

心の応答

毎年ハバロフスク市で植林事業を行う日本のボランティアが、洪水で被害を受けたハバロフスク住民に金融支援を与えます。

この15年にわたって日本のボランティアは、ハバロフスク周辺にチョウセンゴウヤカラマツを植えました。そのため苗木は、特定非営利活動法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会が集めた資金で購入します。当協会の安藤栄美理事長から次のような手紙が届きました。

「私たちは、立派な町であるハバロフスクが被害を受けることをただ見ているわけにはいきません。心からお見舞い申し上げます。過日、ハバロフスク市役所ホームページ公示の外貨送金口座に見舞金としてUS\$ 1000を送金させていただきました。そして、一般人からの寄付がさらに増えましたので、追加で3万ルーブルをお渡ししたいと存じます。これは、2011年の大震災の際にハバロフスク空港から一番に被災地に駆けつけて下さり、最後まで残って下さいましたロシアの皆様のご支援への恩返しになればとの気持ちでもあるかと存じます。もちろん当協会は植林・環境教育・野鳥観察などでハバロフスク市には、大変お世話になっており、少ない額ではありますが、心からの感謝を込めてお見舞金をお送りする次第です。

これから冬に向かい、洪水の後処理は困難をさわめることと存じます。どうぞ皆様、お体を大切に、この大変な出来事を乗り越えてください。」

エレナ・チェルニコワ

2013年10月1日(火) ハバロフスキエ・ヴェスチ新聞

2014 植林ボランティアツアーに、 国連フォレストヒーローズの畠山重篤氏が 同行します!!

1998年に始まり、通算15回目（NPOでは6回目）の植林ボランティアツアーを5月4日（日）～11日（日）の予定で実施します。今年からフライトスケジュールが変更になり日曜日の出発となりました。

今回は、プリローダ55号でご紹介した畠山重篤氏が一緒にご一緒に、現地の太平洋国立大学で実施される環境セミナーで講演をしていただきます。畠山氏取材する毎日新聞の記者の方も同行します。

また、2012年からナナイ地区の山火事現場での植林を始めていますが、今年はアヌイスキー国立公園内の宿舎に泊まり、ハバロフスク以北の春の訪れを楽しんでみたいと思います。

現地の学生さんたちも多数作業に参加していただきますので、日本とロシアの友好を深めるためにも、ぜひご応募下さい。

プロフィール

牡蠣の森を慕う会代表 畠山 重篤（はたけやま・しげあつ）

1943年中国・上海生まれ。宮城県・気仙沼湾でカキ・ホタテの養殖業を営む。1989年「森は海の恋人」を合言葉に植林活動を始める。一方、子どもたちを海に招いて体験学習も行っている。漁師による森づくりの活動は大きな反響をよび、表彰・著書多数。2004年より京都大学フィールド科学教育センター社会連携教授。NPO法人森は海の恋人・理事長。

2011年の東日本大震災で養殖施設のすべてを失うが、直後から活動を開始、東北復興を牽引している。

国連森林フォーラム(U N F F)は、2011年の国際森林年に際し、森を守るために地道で独創的な活動している功労者を「フォレストヒーローズ」として顕彰する事業を実施、世界の5組のうちの一人に選出された。

「チョウセンゴヨウ」と「アムールトラ」

当協会が、ハバロフスクで植林している樹種は「チョウセンゴヨウ」です。ロシアでは「ケードル」と呼ばれており、学名は *Pinus koraiensis*、木材流通の際には「ベニマツ」とも呼ばれています。

この球果（まつぼっくり）は非常に大きく、その実（種）は栄養価に富んでいて「森のパン」と称されるほど。小動物の重要な食糧になっています。小動物のみならず、ハバロフスクの街中では人間の食料（おつまみ等）として、売られているのによく見かけます。

ロシア政府は2010年の寅年に、この「チョウセンゴヨウ」の全面伐採禁止を発表し、WWF（世界自然保護基金）ロシアのイゴール・チェスティン氏は、「このことは、アムールトラにとって寅年の最高のプレゼントになった。」と発言しています。（2010年11月19日付けWWF記者発表資料より）

その意味は、チョウセンゴヨウを保護することにより、その実が増え、小動物が増え、それらを捕食するイノシシなどが増え、森の食物連鎖の頂点にいる絶滅危惧種であるアムールトラを保護することになるためです。

一方で、チョウセンゴヨウは、木材としての価値が非常に高く、そのため違法伐採が後を絶たない状態でした。

当協会では、植林開始当初の1998年からロシア側と協議の上、「チョウセンゴヨウ」の植林をつづけています。日陰でも育つこの樹種は、樹下植栽（伐採後の裸地ではなく、その後に二次林として別の種が生えている木の下で植えること）が可能であったことが大きな利点でもありましたが、図らずも、アムールトラを守ることもつながっていたのです。

しかしながら、アムールトラ1頭あたりが生息するためには、約1千平方キロメートルの森林が必要だといわれています。もしも、子ども2頭を有する家族のアムールトラが生息するとならば4千平方キロメートル（東京都の面積の2倍）の森林が必要になります。

当協会が毎年訪れている大ヘフィツィル自然保護区の面積は、450平方キロメートルですので、アムールトラ1頭が生息するためだけでも、2倍以上の面積が必要になります。この広さの森を守ること、ひいてはアムールトラを守ることは、なかなか簡単でないことは明白です。

NPO法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会は、今後とも極東ロシアの植林活動を、細々とでも長く続けていきたいと考えています。



2013 緑の少年団 国際交流 in ハバロフスク

2013年8月4日～9日にかけて、公益社団法人国土緑化推進機構主催による「緑の少年団の国際交流」がハバロフスクで開催されました。この交流は国際森林年であった2011年から始まったもので、当協会は当初から受託事業としてコーディネーターを務めており、今回は総勢26名の訪問団で伺いました。

この交流を受け入れてくださったのは、当協会の植林事業に協力していただいているハバロフスク地方政府森林管理局の方々です。通常の業務に加えて、子どもたちのためにさまざまな環境教育プログラムを考えて、対応してくださいました。



グループごとに環境ポスターを書きました



グループコンテストのロープ渡り



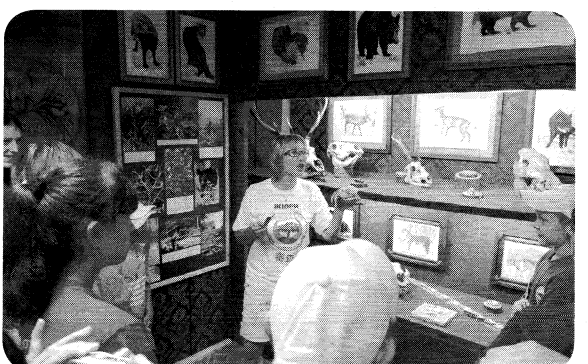
ディスコは、女の子が積極的。男の子は壁の花？!



はっぴとゆかたを持参して踊ったよ



現地のTVインタビューを受けました



自然保護区の博物館での学習



種苗育成所の見学



歴史ある建物で活動発表を行った後の記念写真

*** 本の紹介 ***

みなさんは、

「極東ロシア・アムールの動物たち」(出版社:未知谷)というシリーズの本をご存じでしょうか?

狩人でもあり、探検家・地理学者・郷土研究者・博物館員・社会活動家など、さまざまな肩書きを持つロシアの作家フセヴォロド・P・シソーエフ氏が書した児童文学です。これが、大人でも十分楽しめる内容なのです。

世界の動物文学といえば「シートン動物記」が有名ですが、それとは一味違ったシソーエフ氏の作品は、その様々な肩書きに裏打ちされた豊かな経験から生まれた迫力あるもので、ロシアの児童動物文学では最高峰と称されています。

画家の森田あずみさんが描き、訳者は、当協会の植林ボランティアツアーで大変お世話になった岡田和也氏です。岡田さんには、「ロシアの声」(国営放送)ハバロフスク支局特派員で

あった頃に、何度も当協会の活動を取材され、さらに放送もしていただきました。その放送を聴いて、植林ボランティアツアーに参加して下さった方もいらっしゃると思います。

さて、「極東ロシア・アムールの動物たち」のシリーズですが、「ツキノワグマ物語」「森のなかまたち」「獵人(かりうど)たちの四季」「北のジャングルで」(いずれも四六判・上製・224頁、本体2200円(税別))に続き、2013年9月にシリーズ5作目である「森のスケッチ」(本体1800円)が発売されました。アマゾンなどでも購入できます。問い合わせ=株式会社未知谷 03・5281・3751。

「獵人たちの四季」や「森のスケッチ」には、当協会が植林を実施しているワロニシやヘフツィールの様子が描かれていて、夢中になって読んでしまいます!

今年も環境ポスターを募集します。小学生以上のどなたでも応募ができます。お知り合いの小学生・中学生・高校生の方をぜひお誘いください。



< 第5回 日本とロシア友好環境ポスター 募集要項 >

対象 ……小学生以上

テーマ(内容) ・日頃から感じている自然環境問題に関すること。
・自然を大切にすることが、実践活動と呼びかける文字やキャッチコピー

- ◆ポスターサイズ:A3(420mm×297mm)サイズ以内の縦・横いずれでも構いません。
- ◆画用紙を基本としてその他、画材は自由です。絵の具・クレヨンのほか、切り絵・はり絵でも構いません。

・自然を大切にすることが、実践活動と呼びかける文字または絵の内容にふさわしいキャッチコピーや標語を入れる。
(入れる場所・縦書きか横書きかは、問いません。)
(例) ストップ違法伐採・森林を大切に・紙を大切に・森の動物や植物を守ろうなど。
※字・画等は、黒・赤・青・緑・黄・紫・白でお願いします。

ポスターおもて面

ポスターうら面

氏名(ふりがな)、学校名・学年(組)、作者のコメント(絵の説明などを記入してください。本人署名の月日は必ず記入してください。)

- 学校出品の場合は、先生に何って学校でまとめて郵送できるかどうか確認して下さい。
- 個人出品の場合は、下記住所まで郵送してください。

2014年5月~10月の一定期間に武蔵野市内とハバロフスク市内で展示会を開きます。応募全作品に、主催協会(日本橋)とハバロフスク市役所(ロシア館)からの感謝状をお送りします。NPO法人むさしの多摩・ハバロフスク協会のホームページでも掲載する予定です。なお、応募作品は返却いたしませんので、ご承知ください。

応募期間 2014年1月6日(月)~3月31日(月)

お問い合わせ・送先

NPO法人 むさしの多摩・ハバロフスク協会

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-15-25
TEL/FAX:0422-23-5351 E-mail:mail@mtxa.org Web:http://mtxa.org

※お電話の場合、平日の昼間は留守電話にてお答えいたします。
後援/ 武蔵野市・武蔵野市教育委員会 協力/ ロシア連邦ハバロフスク市国際交流局
公益社団法人国土緑化推進機構 緑の募金交付金助成事業

プリローダ 第57号

発行日 平成26年1月1日
発行 NPO法人むさしの多摩・ハバロフスク協会
住所 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-15-25
TEL/FAX 0422-23-5351
E-mail mail@mtxa.org
URL http://mtxa.org/
発行人 安藤 栄美
編集 田崎 桂子
広報委員 依田和也、北川達也、永田秀樹、木崎 剛、落合 恒、内田 央、内田 周
印刷 巧芸印刷(株)

編集後記

昨年は、急なお願いであったにも関わらず多くの見舞金が集まり、NPO法人冥利につける嬉しい出来事となりました。

今年は、植林ボランティアツアーに世界的に活躍されている畠山重篤氏をお迎えすることができました。

これからも、ますます充実した活動ができるように頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくご支援のほどをお願い致します。

